

## わかくさ

川村小学校の合言葉 **がんばる自分 ささえる仲間**

松田町の河津桜がきれいに咲きほこり、多くの観光客が訪れていました。南足柄市の春めき桜もつぼみがふくらみ、間もなく咲き始めることでしょう。その後、いよいよ山北町のソメイヨシノの季節を迎えます。春のリレー。1年で一番好きな季節です。3月はワクワクの中に、ちょっぴりさみしさもあります。卒業式まであとわずかとなりました。何気ない日々の中に、たくさんの喜びや楽しさがあることを忘れずに過ごしたいものです。

## ありがとう集会 2月26日(水)

昨年から復活したありがとう集会を開催しました。卒業式に出られない下級生から、6年生へ感謝の思いを伝える会として5年生が主体となり企画・進行を担当しました。5年生はこの日に向け、早くから準備をしてきました。この活動をとおして、最上級生としての自覚が芽生え、6年生からバトンが受け継がれていくのです。

第1部は、各そうじ場所に分かれ、班で一緒にゲームをしたり、みんなで作った折り紙の花を花束にして渡したりしました。下級生も自分の言葉で6年生への感謝の気持ちを伝えていました。担任は6年生に向け「あなたが1年間やってきたことの答え合わせの会でもある。」と話していました。みんなからの感謝とお祝いの言葉もらった6年生は、恥ずかしいながらも嬉しそうにしていました。

第2部は各学年の出し物です。それぞれの学年らしさがあふれていました。5年生の出し物の最後に、全校が合流しみんなで「アパツダンス」をしてポーズを決めました。そして歌った「ありがとうの花」は、参加したみんなの心にしみる、素敵な歌声でした。6年生卒業おめでとう。今までありがとう。



そうじ場ごとに行った第1部

5年の出し物の最後に合流し  
全員でポーズ

## 3学期最後の授業参観・懇談会 2月14日(金)

今年度最後の授業参観・懇談会を開催しました。当日はグラウンドが車でいっぱいになるほど、多くの方にご参加いただきました。各担任も、子どもたちの1年間の成長が伝わるよう、授業の内容や、懇談会の資料にも工夫を凝らしていました。様々な場面で撮った写真を動画にして、流したクラスもありました。実際の児童の様子を見ていただいたことで、より話の具体が伝わったことと思います。校内を回っていると、各教室から笑い声が聞こえてきて、担任と保護者の方が、温かい雰囲気の中で対話している様子が伝わってきました。1年間、様々な場面でご協力いただきありがとうございました。

2月28日は今年最後のマイ弁当。各クラス思い思いの場所で食べました。6年生は1年生と丸山公園でお弁当を食べた後、楽しく一緒に遊びました。私がカメラ片手にクラスを回ると「自分で作ったよ。」とお弁当を見せてくれる子がたくさんいました。



毎年恒例となった6年生のロケット教室を開催しました。小学校を卒業し、新しい世界へ飛び立つ子どもたちに、未来への希望と自信をもってもらいたいという願いから行っています。プロジェクトの発起人である植松電機社長の植松 努さんのメッセージ動画を視聴したあと、ロケットの制作をしました。「『好き』という気持ちが夢を叶える原動力となる。」「ロケットを飛ばせる自分はなんでもできるという自信をもって欲しい。」という植松さんからのメッセージは、6年生の心に届いたことと思います。



自分で組立てたロケットは、「3・2・1・0!」のカウントダウンで、晴れ渡った大空へ勢いよく飛んでいきました。空中でパラシュートが見事開くと歓声があがり、友だちの声援を受け、ダイレクトキャッチをめざして走っていました。それぞれの夢を乗せて、打ち上げたロケット。卒業前にまた一つ思い出ができました。

## 1年生 園児との交流会 2月7日

1年生の生活科の学習で、年長園児を招待した交流会を開催しました。他市町からの入学予定者にも声をかけ、入学前の仲間づくりにもつなげています。初めに「きらきら星」を合奏しました。モニターを使った小学校生活の説明や小学校クイズなど、園児に楽しんでもらえるよう考え準備してきたことを発表しました。また園の先生のリードで、みんなが知ってる「シーシーチャオ」を歌いながら、2人組から4人組とグループを作り、最後は全員で大きな輪を作りました。自分から声をかけ、園児の手をつなぎリードしている

1年生の姿から、この1年間の成長と2年生への自覚の芽生えを感じる会となりました。



## 地域防災課とのコラボ企画 3・11を忘れない

東日本大震災の発災日に合わせて、町の地域防災課の方が防災啓発物品の展示を行っていただきました。



段ボールベットや、災害用トイレやテント、防災グッズなどが展示され、子どもたちは実際に手に取って体験していました。町が備蓄しているライスクッキーも一箱ずついただきました。学校では、皿も鍋もいない、救給カレーを提供し、災害時の食事を体験すると共に、フードロダリングについて紹介しました。学校と、町と



のコラボ企画により、学習と体験が結びついて、防災についてより深く考えるきっかけとなりました。

## 校長室の窓から

この季節になると、様々な場面で「桜ソング」を耳にします。森山直太朗の「さくら」、いきものがかりの「SAKURA」、福山雅治の「桜坂」、ケツメイシの「さくら」など、たくさん桜ソングがありますが、あなたが好きな桜ソングは何ですか？共通して歌われているのは、「今、ここにいない人を思う」ということです。桜の花が舞い散る様子を見ると、かつての親しい人との思い出が鮮やかによみがえるという情景を歌ったものが多いように感じます。そして、それらの歌は、聞く人自身の同様の思い出を呼び起こすからこそ、多くの人から愛されているのではないのでしょうか。春にはそんな、別れのせつなさや、新生活が始まることへの期待と少しの不安がまっています。6年生との対話の中で、中学校生活への期待とともに、学習や部活、新しく出会う先生との関係に少し不安を感じているという子もいました。それらの気持ちも、いつか甘酸っぱい思い出に変わります。山北の美しい桜に見守られ、それぞれの新生活が希望に満ちたものになることを願っています。